



工場で培われた生産ラインの効率化やイニシャル・ランニングコスト削減が追求された植物工場

パナソニック福島工場

PANASONIC FUKUSHIMA FACTORY

生産技術と農業技術が融合した植物工場
 パナソニック株式会社AVCネットワークス社福島工場も、東日本大震災で大きな損傷を受け、なかでも生産ラインのあった3号棟は躯体などを修復したものの利用されずにいた。
 経済産業省は平成25年度に先端農業産業化システム実証事業を実施。これは被災地における先端技術を活用した先端的農業システムの実証と、その生産物における収益性の高い加工・流通システムに対する補助事業で、パナソニックが対象として選ばれた。当社がかねてより先行研究として植物工場に取り組んでおり、この技術を福島工場の空きスペースを有効活用

することにより、この実証事業を推進している。
 この植物工場で特徴的なのは、当社が保有する、照明・空調・ネットワーク、省エネなどの幅広い技術と商材の投入。工場で培われた生産性向上、品質安定化、コストダウンなどの多彩な技術をフル活用して、機械による自動化と人による手作業の最適化を追求している。
 現在は、水耕栽培によりレタスを発芽から収穫まで6週間で行い、さらに短縮を計画中。ここでは、腎臓病患者用の低カリウムレタスなど高機能性植物の生産をめざし、県内外の病院や大学などと産官学の連携を行うなど、食材販売も含めた実証事業の体制も構築している。



パナソニック福島工場

所在地 / 福島県福島市太平寺字一本柳
 事業主 / パナソニック株式会社 AVCネットワークス社



330株/日を生産する計画の1期工事ゾーン。3期工事後は最大約3,000株/日の生産が想定されている



野菜に最適な空調や照明が生育を促す



ウレタンスポンジで育苗された苗を育成プレートに定植(量産時、省人化設備対応)



コストを追求してビニールハウスで造られた包装、出荷工程用クリーンルーム



最適制御された養液システム



稼働を待つ2期工事ゾーン